

企業におけるデータ主権の保持を支援

鍵管理ソリューション for Google Workspace

DXの推進に伴い、企業においてクラウド型のグループウェア導入が加速する中、データ主権の在り方が課題となっています。
鍵管理ソリューション for Google Workspace は、Google Workspace の Client-Side Encryption (CSE) 機能を利用する際に必要となる暗号鍵を、日立ソリューションズが提供。より安全で利便性の高いデータ利活用を支援します。



なぜデータ主権の保持が必要なのか？

海外ベンダーのクラウドサービスを利用する場合、クラウド上のデータはその企業が属する国の法律によって管理されるため、機密性が高い情報を扱う企業や業界、行政機関などでは、データ主権を脅かされる可能性があります。そのため、万が一の際にもデータ主権を保持できる仕組みが求められているのです。

例：米国の法律「CLOUD Act」では、米国で運営しているベンダーに対し、何らかの捜査に必要があると判断された（令状が出された）場合に、ベンダーが保持する情報の開示を要求することが可能

また、2022年5月に日本で成立した経済安全保障推進法では、重要インフラの安全性確保のため、特定の技術の守秘義務や機微な情報の流出防止が求められるなど、企業にとってサイバー攻撃や情報漏洩への対策もより重要となっています。

このような中、注目されているのが「BYOK (Bring Your Own Key)」の考え方です。
クラウドサービスを通じてやり取りするお客さまのデータを、お客さまが用意した鍵で暗号化することでデータを第三者から保護します。

このようなお悩みはありませんか？

Google Workspace は活用したいが、クラウド上に機密情報を置くのは不安



サードパーティの鍵管理サービスで Google Workspace 上のデータを暗号化したいが、海外の鍵管理サービスで暗号鍵を管理するのは不安



情報管理規制が厳しく、ITAR、CJISなどへの対応が必要

*ITAR: 武器国際取引規則
CJIS: 刑事司法情報サービス



鍵管理ソリューション for Google Workspace が課題を解決！

鍵管理ソリューション for Google Workspace は、Google Workspace の Client-Side Encryption (CSE) 機能を利用する際に必要となる暗号鍵を日立ソリューションズが提供します。
Google Cloud や第三者によるデータの閲覧を防止します。



特長

日立ソリューションズは、Google Workspace の CSE の国内初の公式パートナーとして、より安全で利便性の高いデータ利活用を支援します。

暗号鍵を日本国内で管理

暗号鍵はお客様自身、または日本企業である日立ソリューションズが日本国内で管理するため、他国の法律により第三者からデータが閲覧される心配なく、データ主権の保持とコンプライアンスの徹底を支援します。



データ暗号化の分野でシェアNo.1*の実績を持つ日立ソリューションズがサポート

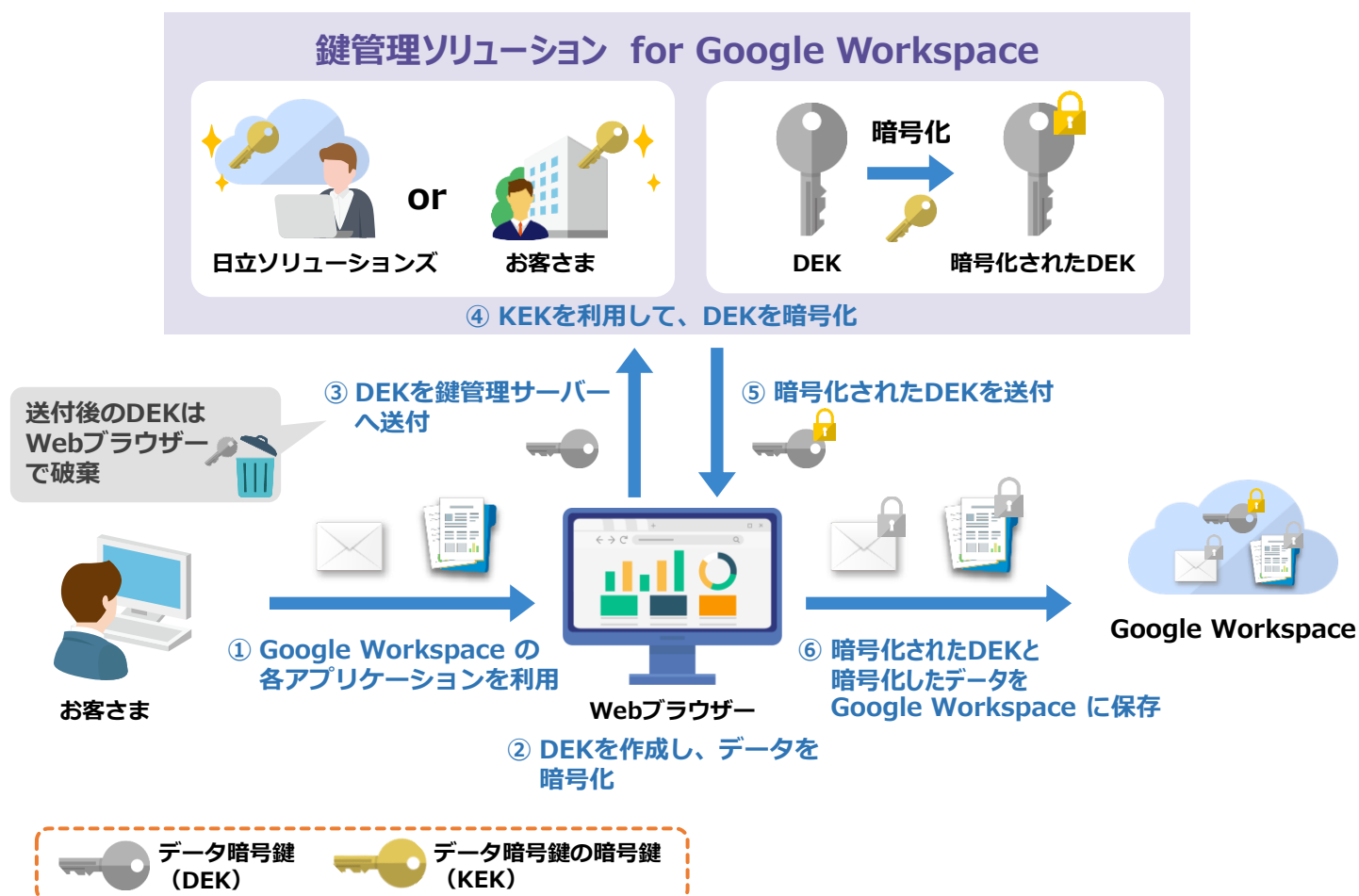
情報漏洩防止ソリューション「秘文」や海外ブランド「Credeon」など、国産技術によるデータの暗号化製品やサービスを長年に渡り提供してきた実績やノウハウをもとに導入から運用まで支援します。

*株式会社 富士キメラ総研「2020 ネットワークセキュリティビジネス調査総覧 市場編」
＜ファイル暗号化ツール＞ 2019年度より



提供イメージ

日本国内で「暗号鍵」をセキュアに管理



※ Google Cloud、Google Workspace および関連するサービスは、Google LLC の商標です。 ※本リーフレット中の会社名、商品名は各社の商標、または登録商標です。
※本文中および図中では、TMマーク、®マークは表記していません。 ※製品の仕様は、改良のため、予告なく変更する場合があります。
※本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。 ※本リーフレット中の情報は、作成時点のものです。

株式会社 日立ソリューションズ

www.hitachi-solutions.co.jp

本リーフレット掲載商品・サービスの詳細情報
www.hitachi-solutions.co.jp/kms/

